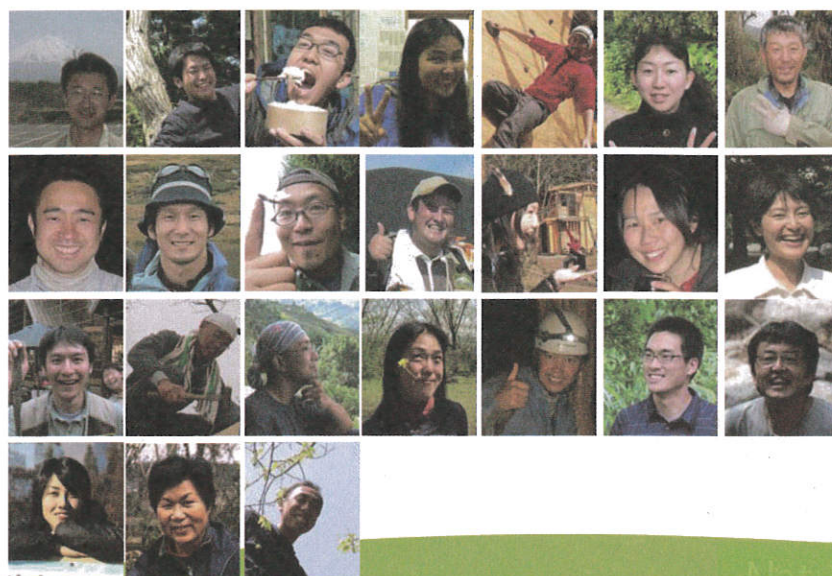


資料編 3地区プレゼンテーション資料

ろうきん森の学校【富士山地区】

5年間のあゆみとこれから



NPO法人ホールアース研究所とは

創立：1982年

母体：ホールアース自然学校 (NGO・法人格：株式会社・NPO)

拠点：富士山本校を含め全国7箇所

業務分野：

自然体験型環境教育プログラム

地域振興・調査研究・政策提言・CSR支援・国際協力

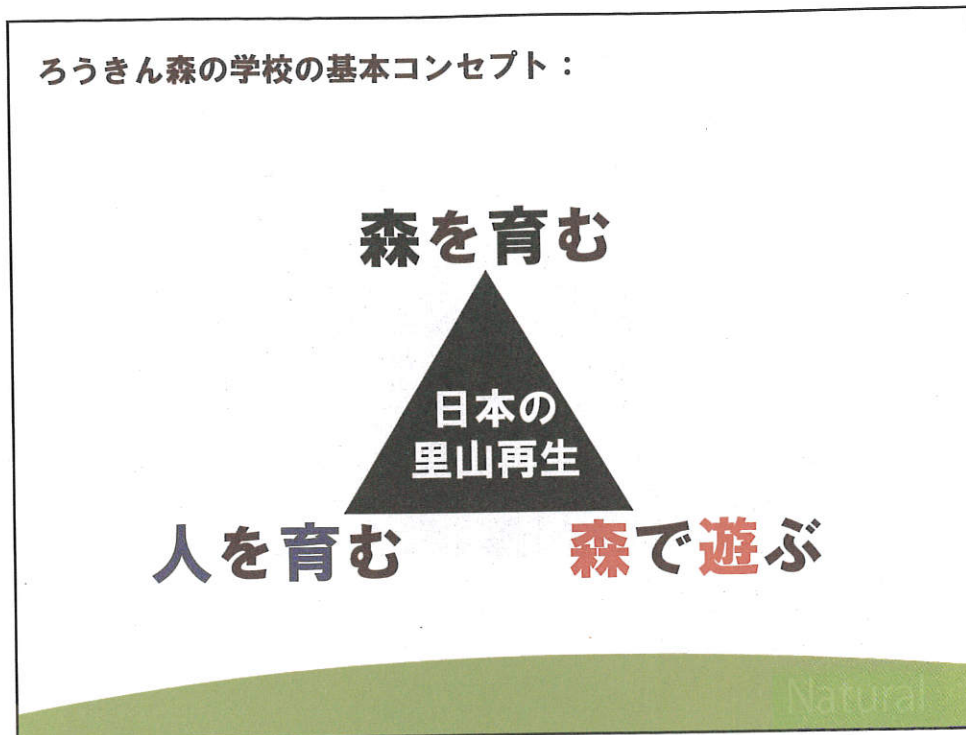
エコツーリズム・災害救援・ネットワーク支援

富士山本校での活動：

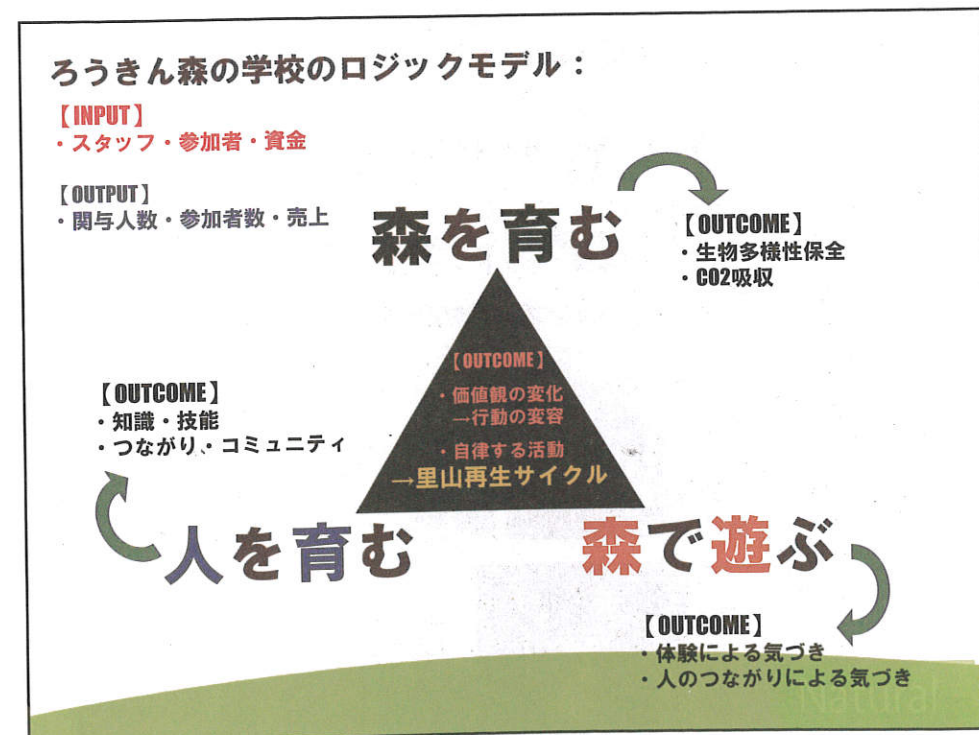
各種主催プログラム・キャンプ・学校団体受入・エコツアー等



ろうきん森の学校の基本コンセプト：



ろうきん森の学校のロジックモデル：



ロケーション：



3箇所3様のサイトの整備活用方針



富士山地区の運営コンセプト：

1. **誰でも参加・受入可能な場所に**
2. **質の高い体験型・参加型の環境教育**
3. **森を「里山」と広く捉え、農的生活も含めた形での活動展開**
4. **人材育成を、指導者育成だけでなく、生活者育成を含めた形で展開**
5. **新しいプログラムを先進的に取り組み、育成し、経済的・ブランド的に自立させる**

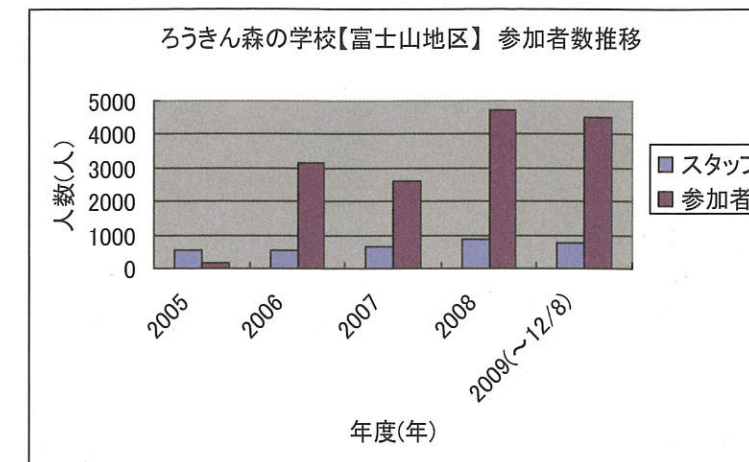
Natural

5年間のあゆみ

- 2004 フィールド調査
対象地選定・協定締結・10年計画策定
- 2005 ろうきん森の学校スタート
インフラ整備・森林整備
パイロット・プログラム開始
- 2006 プログラム本格スタート
人材育成(生活者育成)スタート
- 2007 柚野エリア活用拡大
森と畑のようちえんシリーズ化
- 2008 インフラ整備ほぼ終了
- 2009 プログラム卒業・入学
ようちえんシリーズ卒業
里山つなぎ隊・おいしい里山シリーズ新入学
- 2010～ 対象地拡大へ

Natural

参加者数の推移



Natural

■森を育む(森林整備)

第1フェーズ：大規模な竹林伐採・施設整備(柚野エリア)



Natural

■森を育む（森林整備）

第2フェーズ：サイトの維持・管理と対象エリアの拡大
ワークキャンプをトライアル実施



Natural

■森を育む（森林整備）

第3フェーズ：拡大エリアでの実質的な森林整備の本格化
「国際ワークキャンプ」機能しはじめる。
「里山つなぎ隊」結成。活動を開始。



Natural

■森で遊ぶ（森林での自然体験活動）

トライアル実施

親子で過ごす森の時間、大人のこだわり工房、田貫湖自然紀行
ムササビの視点で森を見る 等



Natural

■森で遊ぶ（森林での自然体験プログラム）

- ・里の恵みをおすそわけ（場所：主に柚野エリア 対象：親子）
- ・おいしい里山物語（場所：柚野集落 対象：主にバルシステムの子供）



Natural

■森で遊ぶ（森林での自然体験プログラム）

『おいしい里山物語』

- 里山や農村の魅力の発信（生産者の思いや知恵）
- 中間支援的な取り組みから、地域活性化を目指す
- パルシステムとの連動から、消費者とのネットワーク



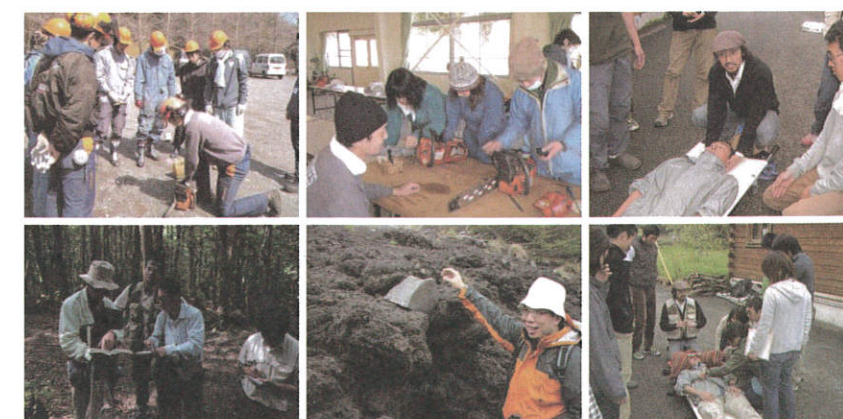
■森で遊ぶ（※サイト利用）

キャンプ、自然学校講座等で袖野エリアが大活躍！



■人を育む（人材育成）

野外技術、野外救急、チェーンソー、植物知識等、スタッフのスキルアップ
→参加者・会員のスキルアップ・活躍の場「人材バンク」創設へ。



Natural

■地域との連携①

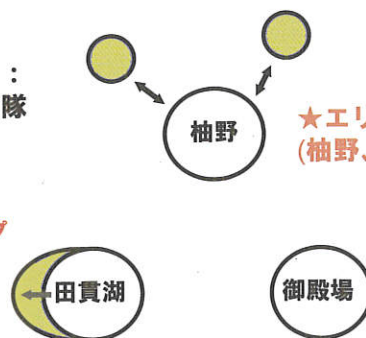
地域向けイベント：静岡労金富士宮支店との連携（田貫湖エリア）



■今後の展望：

人的リソース：
・里山つなぎ隊
・人材バンク

スキルアップ



プログラム：

- ・おいしい里山物語→成長→独立・
- ・里山系の新たなプログラムの投入

入学→卒業のサイクル確立

地域：

- ・良好な関係作り
- ・静岡労金
- ・地元労働組合との関係づくり

Natural

ろうきん森の学校【富士山地区】将来ビジョン：

- ・人と人が育てあう
- ・つなぎ隊・人材バンク等を
テコに森林整備を推進
- ・プログラム受益者負担

森を育む

【OUTCOME】
・生物多様性保全
・CO2吸収

【OUTCOME】
持続可能な
里山モデル

人を育む

【OUTCOME】
・つながり構築
・行動変容
・他者への影響

森で遊ぶ

【OUTCOME】
・きっかけ・興味
・行動変容

ろうきん森の学校活動報告 福島地区の5年間

NPO法人いわきの森に親しむ会

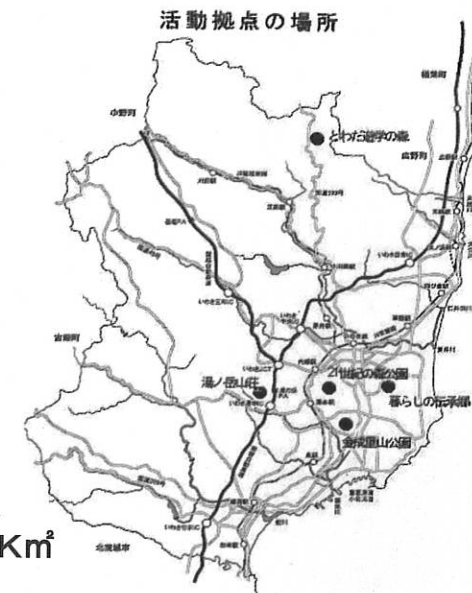
I. 福島地区「ろうきん森の学校」の現在の概要

(1) 活動場所(着手順)

1. 21世紀の森 自然冒険ゾーン	(26ha)	2002年
2. 21世紀の森 五安溜池周辺	(3ha)	"
3. 21世紀の森 山火事跡地	(5ha)	2003年
4. とわだ遊学の森	(40ha)	"
5. いわき金成里山公園岩出の郷	(12ha)	"
6. いわき暮らしの伝承郷	(2ha)	"
7. 好間地区田んぼ	(230m ²)	"
8. 湯ノ岳山荘	(5ha)	2004年
9. 湯ノ岳山荘の隣接地と 周辺の里山と人工林	(12ha)	2005年
10. 戸渡自然体験活動フィールド	(3ha)	2008年

活動拠点

- 21世紀の森
- とわだ遊学の森
- 金成里山公園
- 暮らしの伝承郷
- 好間地区田んぼ
- 湯ノ岳山荘



いわき市の面積: 1, 231Km²

(2) ろうきん森の学校のメインフィールド

湯ノ岳山荘とその周辺(約12ha)はろうきん森の
学校開設に伴い整備したところで、40年近く放置
されていた薪炭林である。

整備内容

1. 植樹後手入れされず放置されている人工林
(2.5ha)の間伐
2. 管理道路の整備(軽トラック通行可)500m
3. 自然観察コースの整備、3コース延べ1,200m
4. 観察コース周辺の広葉樹の抜き切りとササの除去(約3ha)
5. 里山を開墾して作られた耕作放棄地の復元
(800坪)
6. 炭窯設置
7. 石釜設置
8. 燻製窯設置

整備内容



整備内容



Ⅱ. 5年間の成果

(1) 森づくり

人工林の間伐(2.5ha)

広葉樹林の手入(観察コース周辺、約3ha)

…手入れの結果出てきた木材の有効利用
薪、炭、ホダ木、クラフト材料、堆肥等

* * 広葉樹林については毎年維持管理のための作業を実施

森づくり



(2) 人づくり

- 森づくり担い手養成(初級レベル)
チェーンソー、刈払機等の作業機械安全に使用できる
約40名
- 自然観察初級指導員養成 約20名
- 環境教育・学習の指導員養成 約30名

森づくり



(3) プログラム開発

- 森の学校のフィールドにマッチした自然観察会および各種自然体験活動のためのプログラム
- 野菜、山菜、キノコを中心とした食育プログラム
- 森林療法のためのプログラム(現在取組中)

プログラム開発



(4) 地域とのつながり

- 東北労金、連合福島OBの定期的参加
- 地域労組親子の定期的参加
- 小中学校生徒に対する環境教育・学習支援
- 環境教育・学習指導者養成のための研修会
(行政からの依頼によるもので毎年20～30名)
- 地元の大学生の環境教育・自然体験プログラム研修を実施(年間約100名)

地域とのつながり



(5) 参加人員推移

	2006年度	2007年度	2008年度	09/04～11
森を育む	1,008	937	1,166	580
森で遊ぶ	910	746	1,135	1,264
人を育む	410	457	493	425
施設・フィールド整備	363	779	477	358
地域との連携	688	789	1,171	1,456
地区労金との関わり			123	48
計	3,381	3,803	4,565	4,131

Ⅲ. 課題と今後の目標

(1) 課題

- ろうきんもりの学校が10年後に目指す姿のなかの「人・モノ・カネが循環し、自律した活動が展開されていること」を今後5年間の中でどう実現していくか。そのために専従スタッフ1~2名体制を作ること。
- 会を立ち上げてから満8年経過したなかで主力メンバーの大半が設立時のものとなっていること。今後、会の活動を発展させながらいかに世代交代を図っていくか。
- 現在、行政と協議しながら市民参加の森づくり運動に着手したが、これをいかに軌道に乗せて行くか。

(2) 今後の目標

- 森づくりの担い手育成と間伐・間伐材利用促進。
- 健全な森づくりのための市民意識醸成とそのための指導者の育成。
- ろうきん森の学校が10年後に目指す姿に今後の5年間で近づけていくこと。



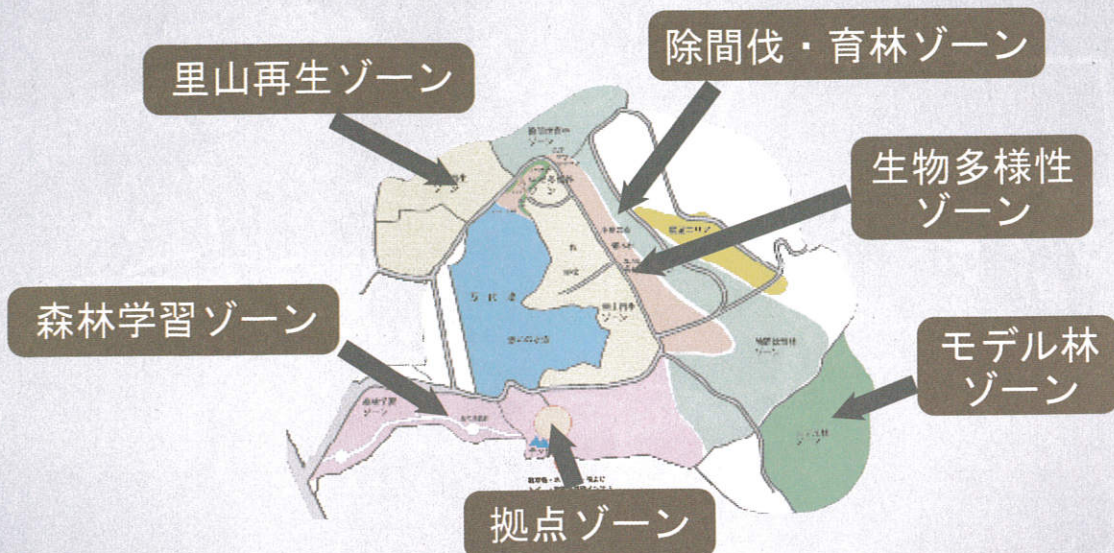
1



2

広島地区の概要

- 広島駅から車で1時間
- 雑木林・アカマツ林・人工林・万代池（約11ha）



3



5

基盤整備



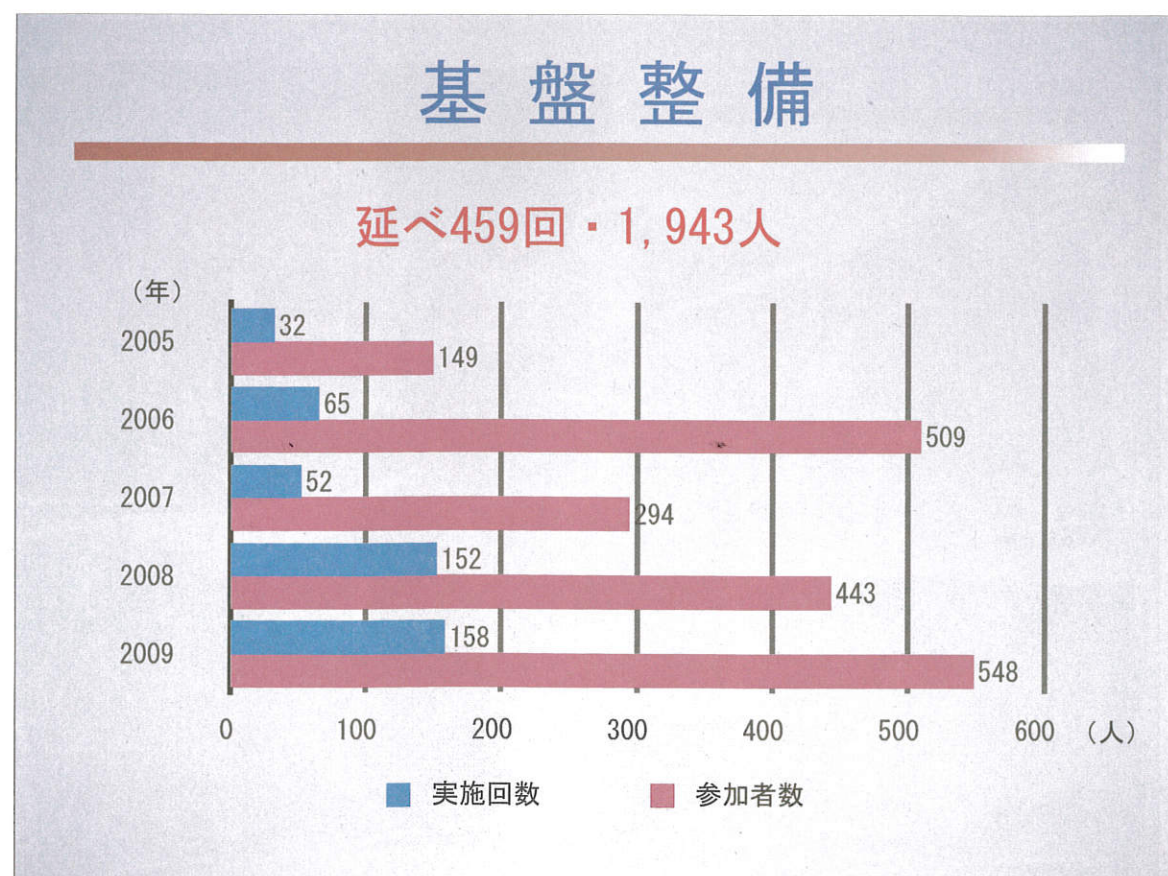
6



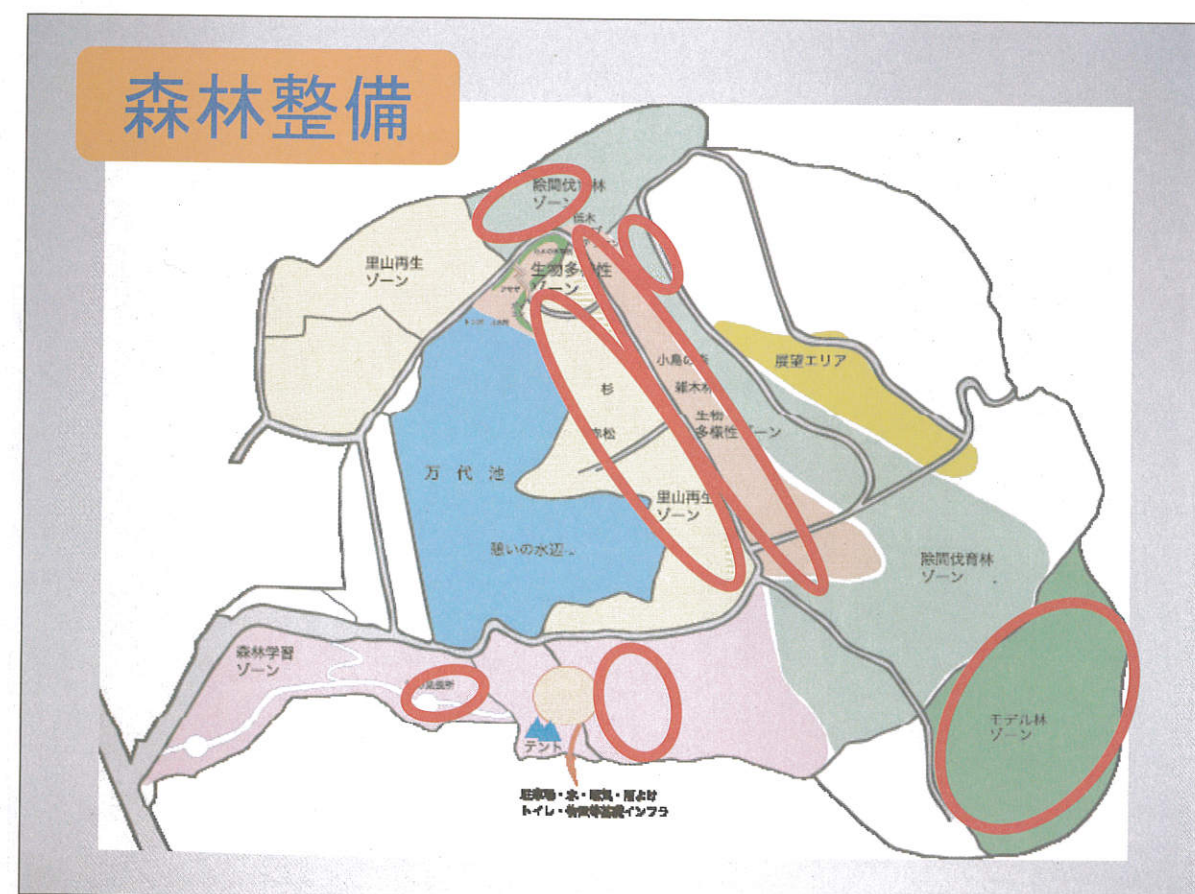
5



10



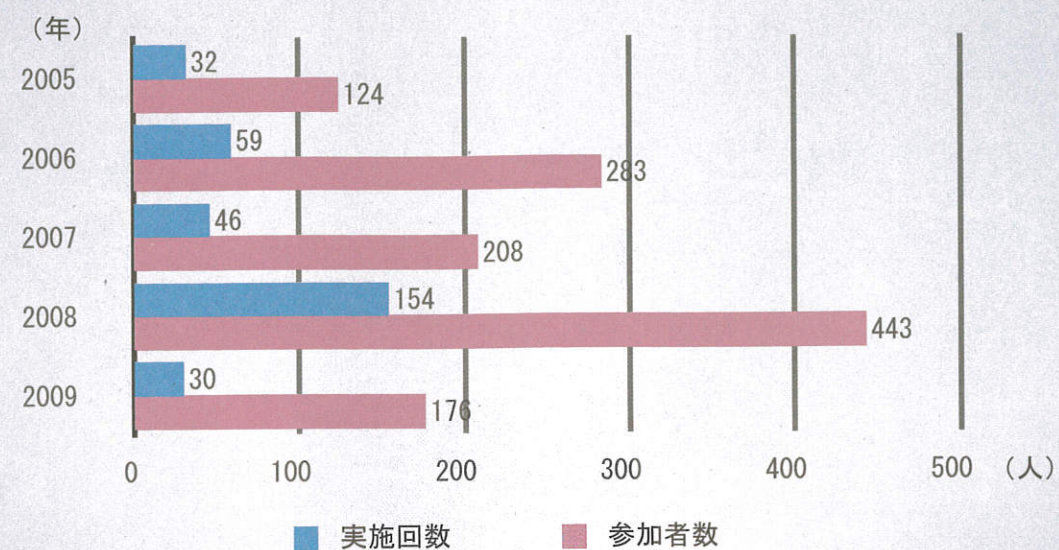
8



11

森林整備

延べ321回・1,234人



12

プログラム 開発

13

プログラム開発-子どもの自然体験（わくわく探検隊）



14

プログラム開発-家族の自然体験（森のカフェ）



15

● プログラム開発-食育（小麦プロジェクト）



16

● プログラム開発-指導者養成（ユースボランティア）



18

● プログラム開発-環境学習・自然学習



17

● プログラム開発-地元との交流プログラム



19

● プログラム開発-地元労金・労福協との連携



20

● プログラム開発-地元労金・労福協との連携



22

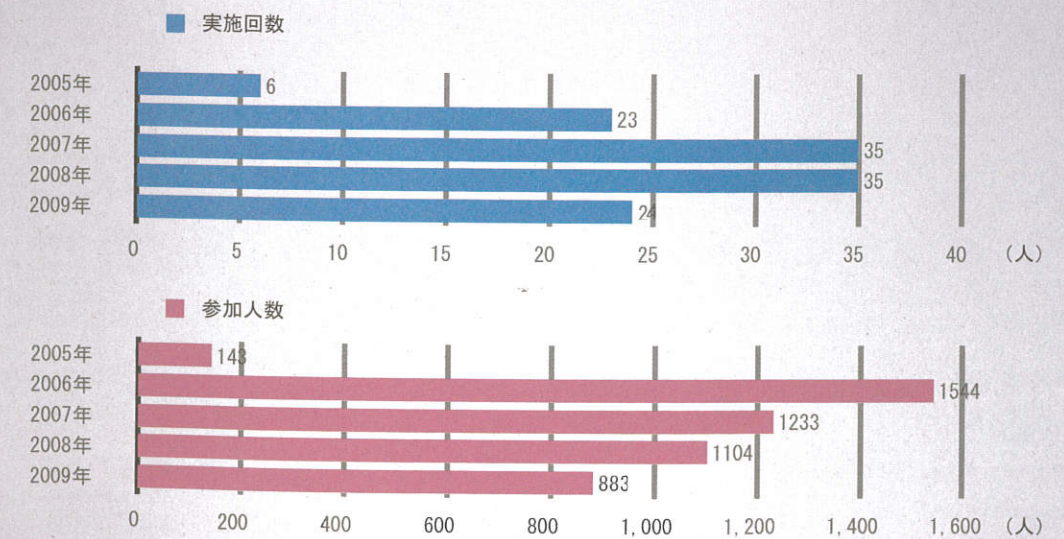
● プログラム開発-地元労金・労福協との連携



21

プログラム開発

延べ123回・4,907人



23

今後の課題

- 基盤整備

 - 簡易宿泊施設（整備中）

- プログラムの充実

 - 宿泊型プログラム

 - EARTH KEEPERSの導入検討

- 多様な主体との連携強化

 - 地域，地元労金・労福協，大学
関係団体

- 運営資金の確保